

骨学・筋学

科目責任者 徳田信子
学年・学期 1学年・3学期

I. 前文

人体には約200の骨と600を超える骨格筋があります。骨学 osteology では、主要な骨およびそれらの間の連結様式*について学びます。筋学 myology では、骨学の知識に基づいて、主要な骨格筋の機能（＝関節運動）を中心に学びます。骨学・筋学で扱う骨と筋は、互いに密接に関連しながら運動器系 locomotor system と呼ばれる器官系を構成し、臨床科目へとつながっていきます。また骨学・筋学の確実な習得は、次年度に開始する解剖学実習を適切かつ円滑に行うための大前提です。授業・実習に乗り遅れることのないように細心の注意を払い、十分な準備をするように努力してください。骨学・筋学は、ディプロマ・ポリシー「医学知識 1. 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。」を目指します。解剖学概論の学びと合わせ、人体の構造と疾患について理解を深めてください。（*骨の連結様式を扱う分野は靭帯学 syndesmology または関節学 arthrology という）

II. 担当教員

教	授	徳	田	信	子	解剖学
准	教	授	上	田	祐	司 解剖学
准	教	授	江	原	鮎	香 解剖学
講	師	山	口	剛		解剖学
学	内	講	師	橘	篤	導 解剖学
助	教	北	沢	祐	介	解剖学
助	教	沢	登	祥	史	解剖学
非常勤講師 高橋秀雄 解剖学						

III. 一般学習目標

全身の主要な骨と骨格筋について、運動器 locomotor としての基礎知識を習得する。骨学では、骨学実習を授業に並行して行うことにより、また筋学では、自分自身の体を用いた実証的授業により、短期間に効果的な学習を目指す。

IV. 学修の到達目標

- 1) 全身の体部・部位の名称を確実に記憶する。
- 2) 面・方向・向きおよび関節運動に関する用語を正確に使えるようになる。
- 3) 全身骨格を部分骨格に分けて、各骨格にどのような骨が含まれるかを言える。
- 4) 主要な骨格の連結（関節、軟骨結合、縫合）について説明できる。
- 5) 神経系の構成と各構成要素の機能の概要を説明できる。
- 6) 全身の骨格筋を筋群に分けて、各筋群に含まれる主要な筋の機能を説明できる。
- 7) 全身の体腔の壁にあたる体壁がどのような骨や筋で形成されているのかを理解する。
- 8) 全身の関節運動が統合して、歩行や走行が可能になることを理解する。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	10	6	月	3	講義（１）骨学・筋学総論 1	徳 田 信 子	1
2		8	水	2	講義（２）骨学・筋学総論 2	徳 田 信 子	1
3		9	木	3	講義（３）上肢の骨	徳 田 信 子	1
4		15	水	2	講義（４）下肢の骨	徳 田 信 子	1
5		30	木	1	骨学実習（１）上肢の骨	全 員	4
6		30	木	2	骨学実習（２）上肢の骨	全 員	4
7	11	6	木	1	骨学実習（３）下肢の骨	全 員	4
8		6	木	2	骨学実習（４）下肢の骨	全 員	4
9		11	火	3	講義（５）背部と胸部の骨	徳 田 信 子	1
10		13	木	1	骨学実習（５）背部と胸部の骨	全 員	4
11		13	木	2	骨学実習（６）背部と胸部の骨	全 員	4
12		13	木	4	講義（６）骨の組織学	江 原 鮎 香	1
13		17	月	3	講義（７）頭蓋の骨 1	徳 田 信 子	1
14		20	木	1	骨学実習（７）頭蓋の骨 1	全 員	4
15		20	木	2	骨学実習（８）頭蓋の骨 1	全 員	4
16		21	金	4	講義（８）上肢の筋	上 田 祐 司	1
17		21	金	5	講義（９）下肢の筋	上 田 祐 司	1
18	12	1	月	4	講義（10）頭部・頸部・胸部の筋 1	上 田 祐 司	1
19		1	月	5	講義（11）腹部・骨盤・背部の筋 2	上 田 祐 司	1
20		4	木	4	骨学実習（９）頭蓋の骨 2	全 員	4
21		4	木	5	骨学実習（10）頭蓋の骨 2	全 員	4
22		16	火	4	骨学実習（11）全身の骨	全 員	4
23		16	火	5	骨学実習（12）全身の骨	全 員	4

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（85%）、ミニテストや提出物など（15%）により、総合的に評価する。

なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅰ」の評価として集計される。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り、ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

- 1) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 2) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 3) 図譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院
- 4) 図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学講座図書集会室（133室）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について，間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

予習すべき内容をe-learningや動画などの形式で示すので，必ず取り組んでください。講義当日にこの内容に関するテストを行い，結果は総合成績に反映させます。また，予習用に示されたe-learningや動画については，講義後の復習

用にも用いてください。予習・復習教材と、講義で配布されたハンドアウトをもとに、要点を説明できるようにしておくことが大切です。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。